

- 5 [土]—6 [日] 高校生と創る演劇『せんをかく』◎PLATアートスペース
- 6 [日] 第64回 豊橋邦楽大会 日本舞踊の部◎PLAT主ホール
- 9 [水] 木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』関連企画 木ノ下裕トーク&レクチャー◎PLATアートスペース
- 10 [木]—13 [日] パルコ・プロデュース2022『凍える』◎PLAT主ホール
- 13 [日] ビティナピアノステップ 豊橋11月地区◎PLATアートスペース
- 15 [火] 第9回豊橋技術科学大学シンポジウム「産学官共創で未来を拓く」◎PLAT主ホール
- 16 [水] 高橋あず美ワンマンライブ「AZUVOICE」◎PLAT主ホール
- 19 [土]—20 [日] 劇団チョコレートケーキ『帰還不能点』◎PLAT主ホール
- 19 [土]—20 [日] 劇団「第五会議室」第8回公演『その扉、スタッフ・オンリー』◎PLATアートスペース
- 23 [水・祝] 中嶋俊晴&野畑さおりデュオリサイタル〜歌曲のひとつ〜◎PLATアートスペース
- 24 [木] 上江隼人とアンサンブル・クラシカ・トリオ コンサート◎PLATアートスペース
- 28 [月]—29 [火] 豊橋演劇鑑賞会 第293回例会 俳優座劇場プロデュース 音楽劇『人形の家』◎PLAT主ホール

- 3 [土]—4 [日] とよはし歴史群像劇『神野新田物語』最終話「戦争を生きぬいて」◎PLAT主ホール
- 9 [金] 華麗なる音の饗宴 つむぎ奏でるクラシックコンサート〜ヴィオラとピアノの世界〜◎PLATアートスペース
- 10 [土] 管・弦・打・鍵盤楽器によるコンサート◎PLATアートスペース
- 11 [日] 光松順子エレクトーンコンサート2022◎PLATアートスペース
- 14 [水]—15 [木] 二兎社『歌わせたい男たち』◎PLAT主ホール
- 17 [土] Toyohashiクリスマスコンサート2022◎PLAT主ホール
- 18 [日] 豊橋おやこ劇場 第478回 高学年部例会『サーカスの灯』◎PLATアートスペース
- 23 [金] プラットワンコインコンサート SIGNAL『Percussion Theater〜劇場音楽の調べ〜』◎PLATアートスペース
- 23 [金] MALTA 七人のサムライジャズ◎PLAT主ホール
- 24 [土] クレッシュェンド音楽教室発表会◎PLATアートスペース



表紙/キムラ緑子『歌わせたい男たち』
撮影:本間伸彦
裏表紙/鈴木 杏『凍える』
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和4年10月発行58号[隔月発行]



公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2022年11月—12月
vol. 58



PLAT NEWS

CONTENTS

表紙
『歌わせたい男たち』
キムラ緑子

2
INTERVIEW:1
高校生と創る演劇
『せんをかく』
豊橋に来ないと書けなかった作品。
田坂哲郎
豊橋に旅しながらずっと作っている。
川口智子

6
INTERVIEW:2
『凍える』
演劇は、役者としても
人間としても、
鍛えられる場所です。
鈴木 杏

8
INTERVIEW:3
劇団チョコレートケーキ
『帰還不能点』
劇中劇を積み重ね、
演出と俳優陣の力が噛み合い、
楽しめる舞台になった。
古川 健、岡本 篤

10
INTERVIEW:4
二兎社
『歌わせたい男たち』
今の時代のこの時期に、
絶対に見逃してはいけない作品です。
キムラ緑子

12
INFORMATION
PLAT
主催公演情報

14
PURA PURA
バラコの寄り道ぶらぶら
「なんでタメ口なの?」

15
SUPPORT
TICKET CENTER

裏表紙
『凍える』
鈴木 杏



たり、稽古場の空間を一緒にデザインしたりすることで、2日目の終わりには高校生のみんなの距離が近くなっていました。オーディションの時は、ルールはルールだからと「やってもらっている」という感じが、ワークショップでは、ここで今作っていることをものすごく敏感に受け入れてくれている感じがありました。

田坂—— 演劇部に入っている子たちは、自分たちが知っている演劇というものが当然ある。感想を聞くと「なんか全然違って」とか「カルチャーショック」、「外国に来たみたいですよ」と言っていました。作品を作るというのは常にそういうことだと思います。知らない場所であり続けること、外国であり続けることが、創作の面白さの一つ。

川口—— 高校生たちにとって異界であり、こちらにとっても異界だから。どこに向かっているのかわからない旅行、ミステリーツアーにもなっている。「同じ船に乗ってくれた」という感じになったのは、うれしいですね。

田坂—— 「どこに行くか分からない」ということに対して、怒らず呆れず付いてきてくれている。

川口—— 私は、作品によって毎回演出の仕方を変えるから、『せんをかく』というタイトルで、このメンバーでどう作るかは、今まさに毎日発明している状態です。このプ

当たり前のように中世英語でシェイクスピアをやっていました。私は演劇も観に行かなかったから、それが演劇だと思っていました。大学入って日本の演劇を見るようになってカルチャーショックを受け、このままだと混乱したままだと思い休学して(笑)。ロンドンに留学して10ヶ月劇場通いをし、友達のアパレルショーを手伝った時に「演出したらもつと面白いのにな」と思ったのが、演出をやろうと思ったきっかけです。思えば幼稚園の降誕劇の時から演劇が一番面白くて、今でも続けています。

矢作—— オーディションで高校生と出会った時と、3日間高校生と一緒にプレワークショップを実施した後の印象をお伺いできますか。

川口—— オーディションの時は我々のタッグも初めてだったから、自分たちが今興味を持っている演劇について話すことから始めて、6月のリサーチ作業で共通の言語が出来上がっていきました。豊橋に滞在し、我々が感じていること、発見していることをそのまま創作の中に入れ込み作品にしていくことが、まず方針として立ち上がりました。

8月のワークショップでは、1日目はよそよそしかったのですが、お芝居を即興で語り継ぐことを一緒に体験し

田坂哲郎[たさか・てつろう]／演出家。俳優。沖繩生まれ。2003年に非・売れ線系ビーンズを旗揚げし、福岡市を拠点に活動している。最近では謎解きイベントの企画制作、運営を行っており、うりんこ劇場(愛知)や春日市ふれあい文化センターなどでの実績がある。趣味はリアル脱出ゲーム。九州産業大学非常勤講師。YMCA熊本学院非常勤講師。

川口智子[かわぐち・ともこ]／演出家。音楽・ダンス・映画・伝統芸能等ジャンルを超えた創作、香港や台湾を中心とするアジアのアーティストとの協働企画を展開。主な演出作品にコンテンポラリー・パンク・オペラ『4時48分 精神崩壊』(作:サラ・ケイン、2020年初演)、新作オペラ『あの町は今日もお祭り』(作:多和田葉子、2022年初演予定)、みんなの町をクラフトする1ヵ月「まちクラ」(2021年)など。

にも入り、3歳ぐらいからずっと観ていました。茨城県つくば市にいた時には、母親が「つくば子ども劇場」の事務局長をやっていて、いろんな劇団の人と関わる機会もあり、とても近くに演劇があったんです。

矢作—— 自分が出演したり、作る側として関わり始めたのは、いつ頃からだったのですか。

田坂—— 子ども劇場で年1回公園を借りてイベントをする時に、期間限定の劇団を立ち上げて、芝居をやることになり、屋外でやったのが始まりです。中学1年から市民劇団に2年間所属し、中3で福岡に来て、高校で演劇同好会に入りました。学内公演を年に2回程度行い、2年生になって同好会から演劇部にしました。最初に出た地区大会で、「創作脚本賞」を授賞し、初めて書いた本で褒められたのが、大きい経験でした。

矢作—— 川口さんはどこで演劇と出会ったのでしょうか。

川口—— 幼稚園がキリスト教系で、クリスマスにキリスト降誕劇をやったんです。体も小さくて運動音痴でいろんなことができない子だったんですが、降誕劇だけはみんなとられるのがうれしかった。そこから演劇が面白くなり、小学校の学芸会も嬉々としてやっていました。

中高一貫校の女子校で英語劇をやる部活に入って

矢作—— 最初に、田坂さんは、どういう演劇活動をされているのかお伺いできますか。

田坂—— 普段は、九州の福岡を拠点に、「非・売れ線系ビーンズ」という、自分の戯曲を上演する劇団を主宰し、そこで脚本家と俳優として、年に2、3回の公演を打っています。

矢作—— 川口さんは、普段はどのような活動をされていますか。

川口—— フリーランスの演出家として「どうしても今やりたい」戯曲をやりながら、いろんなご縁をいただいて演出しています。ここ10年はイギリスの劇作家のサラ・ケインの戯曲を、ダンサーたちとダンス作品のように作ったり、音楽家と「コンテンポラリー・パンク・オペラ」という名でオペラ化したりしています。一つの戯曲やひとりの劇作家の作品をしつこく上演するタイプで、最近では、多和田葉子さんの作品を上演することも多いです。あとは、0歳からの小さな子どもたちのための劇場作品をつくったりもしています。

矢作—— 演劇をやるようになったきっかけをお伺いできますか。

田坂—— 母親が演劇好きで、全国団体の子ども劇場

豊橋に来ないと
書けなかった作品。
脚本 田坂哲郎

豊橋に旅しながら
ずっと作っている。
演出 川口智子

聞き手 矢作勝義 穂の国よしはし芸術劇場プロ・芸術文化プロデューサー

11月5日[土]13:00、18:00 開演

11月6日[日]13:00、17:00 開演

脚本=田坂哲郎

演出=川口智子

出演=公募オーディションで選ばれた高校生

会場=PLAT アートスペース

高校生と創る演劇

『せんをかく』

東三河の高校生と、劇場やプロのスタッフが
ともに創作する演劇公演の第9弾。

レワークショップの4日間は実験ですが、「もうこれやらなくていいや」とか、「こっちの方向性は面白い」ということができてるのは、本当に素晴らしい。

矢作——企画側として、参加する高校生たち、クリエイターとして来ていただいている皆さんの双方が、そういう方向に向かってるのはとてもうれしいです。これまで経験してきた演劇ではない体験を高校生達に与えられるといいなと思います。

川口——今回のワークショップでも、高校生は自分たちで稽古し、私たちは次の展開を考えながら遊んでいる時間がありました。一緒に楽しむことがどうやったらできるかと考えたら、教える、教わるではなく、自分が楽しむしかない、というシンプルな結論にたどり着きました。

矢作——今の高校生と、自分たちが高校生だった頃との違い、もしくは変わらないこと。それから、東京と福岡との差や、年代の差を感じますか。

川口——まずこの企画の情報にたどり着いていることがすごい。私は周りに公共ホールがなかったし、そのことを知らなかったの、劇場に足を運ぶことがありませんでした。高校生たちにもアンテナがあるし、劇場も発信している成果なのだと思います。

田坂——僕は、高校生の時にこの企画があれば、多分参加していました。僕はおにぎりを持って一人で芝居見に行く高校生でした。家にパソコンが来るのも比較的早いほうだったので、劇団のホームページも見て

いました。そういう意味では、今の子どもとそんなに変わらない。

矢作——『せんをかく』というタイトルに込めているイメージは。

田坂——豊橋に伝わる鬼や天狗や妖怪が出てくる話や、神様が出てくる話を聞いて、多様性みたいなことを考えています。あとは、豊橋は宿場町という、移動する、通過していく場所で、そこに住んでいる人たちと一時滞在する人たちに分かれています。「一緒」ではなく、そこに明確に線を書くことが、理解の始まりなのだと思います。「分けるから、分かるが始まる」という言い方もあります。私とあなたは違うよね、からでないとお互いを認め合うことはできない。境界線みたいなことを考えています。

川口——東海道の本や日記を読むと、お金をいくら使ったとか、何を食べたとか、記録として残っているのは宿場町の部分です。あとは山賊に会ったとか川が増水したとかいうアクシデント。東海道のその道をただ歩いているという、その紀行を残すことは難しい。だから今回は歩いているその一歩一歩をお芝居にしたいんです。人が連なって、踏みしめていくからそこに道ができる。抜け道もつくられる。人間の営みが線を描いて、繋げていくこともある。

田坂——伝承が語り継がれて残っていくのは、まさに線が描かれていくようです。今やっているテキストでも、誰かから聞いた話が主体です。自分語りをする演劇は山

知らない場所であり続けること、 外国であり続けることが、 創作の面白さの一つ。 その方が飽きずに楽しめる。

ほどあるが、人から聞いた話を繋いでいく、当事者不在の演劇はあまりありません。自分の話をせず演劇は成立するのかが、今回の僕の実験です。

川口——最終的には誰の話だかわからなくなっている、それが本当なのか嘘なのかもわからない。出発点もわからないし、終わりもわからない。そのエッジのない中身だけの感じが面白い。

田坂——そういうことを考えていくと、上演が終わった後に、奇妙な部分が残って面白いと思います。「あの役を演じてこういう気持ちになった」ではない、「あの話をしたのは誰」「あれは何の話だった」が、高校生や観たお客さんに残っていくと面白いと思っています。

矢作——今回のキャラクターのカニには何が込められているのですか。

川口——6月のリサーチの時に牛川の渡しに行った時に、サワガニがいっぱいいて、「サササササ」と動いていて、「ぎゃー」と驚きました。その後、プラットのスタッフさんがたまたまカニを描いていて、カニの話で盛り上がったんです。

田坂——たまたま、描かれたカニの絵が『せんをかく』というタイトルにはまって、「これだ」となった。

川口——「本当にいいのだろうか」と悩んだんですが、牛川の渡しのカニなので、これは正しいに違いないと思いました。果たして人間がしている話かも、もはやわからない。その話を聞いている人も誰かわからないとき、

カニは、穴の中からじっと半身で聞いている。その感じがすごく面白い。話をする人にとってそういう存在はユニークじゃないかな。喫茶店で隣の人の会話を、カニのように、面白くて聞いちゃう存在がいる。それがお芝居的に仕掛けられているのではなく、実は日常的にカニがあふれていると。

矢作——最後に、メッセージを一言ずつお願いします。

川口——我々は豊橋に旅しながらずっと作っています。田坂さんがあれを感じ、これを書いているのだろう、という隠れキャラみたいな、通なものがいっぱい散りばめられています。豊橋で作られているものに旅しに来てください。ちょっとノスタルジックな感じもあるかも。

田坂——本当に豊橋に来ないと書けなかった作品です。でも、それは豊橋の何かを紹介するものではありません。劇作家が豊橋をかみ砕いた結果というか、遊んだ結果を観に来ていただきたい。それをどうしゃべるのかを楽しみに、「ああ、なるほど」と思うかもしれないし、「私の豊橋はこんなじゃない」と思うかもしれない。異国の話に思えるかもしれないし、「超豊橋だった」と思ってくれる人もいるかもしれない。どう思ってもらっても面白い。そのへんもすごく楽しみです。

川口——このままのプランで行くと、毎回上演のスタイルが変わるはず。それを高校生と一緒にやるのは楽しい冒険なので、ぜひ4回観に来てください。

矢作——ありがとうございます。

高校生と創る演劇

『せんをかく』

東三河の高校生と、劇場やプロのスタッフが
ともに創作する演劇公演の第9弾。



『凍える』

ある日電話が鳴った……

あの日から止まったままの時間が、静かに動き出す。

11月10日[木]13:00 開演

11月12日[土]13:00、18:00 開演

11月13日[日]13:00 開演

作=ブライオニー・レイヴァリー

翻訳=平川大作

演出=栗山民也

出演=坂本昌行、長野里美/鈴木 杏

会場=PLAT主ホール

『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう2』参加作品



聞き手 矢作勝義 種の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

演劇は、役者としても人間としても、鍛えられる場所です。 出演 鈴木杏

鈴木杏[すずき・あん] / 1996年デビュー。2003年、映画『Returner』で第26回日本アカデミー賞新人俳優賞と話題賞をW受賞。同年、『奇跡の人』のヘレン・ケラー役で初舞台。その後、蛭川幸雄、いのうえひでのり、鈴木裕美、松尾スズキ、長塚圭史ら実力派の演出家と組み、話題の舞台に出演し続けている。2016年『イニシュマン島のピリー』『母と惑星について、および自転する女たちの記録』で第24回読売演劇大賞最優秀女優賞を受賞。最近の主な舞台に『イニシュマン島のピリー』『母と惑星について、および自転する女たちの記録』『足跡姫〜時代錯誤冬幽霊』(2017年1-3月)など。

矢作——今回、栗山民也さん演出『凍える』でプラットにお越しいただきますが、栗山さんの演出の特徴をお伺いできますでしょうか。

鈴木——栗山さんは視覚的な演出が特に素晴らしい。動きや、舞台上の美しさに、まずフォーカスを当てている印象です。本を読んだ時に、視覚的なイメージが最初に出てくる方なのかなというのを感じています。過去に演出を受けた作品では、日常生活ではないような予期せぬ動きの演出をつけられました。すごく不思議なのですが、それをやっているという役の持っている心情がわかる瞬間がありました。今回は、余白がたくさんある戯曲だけに、栗山さんがどういう場所に導いてくださるのか、今から楽しみです。

矢作——今回は3人だけの出演。鈴木さんが今までに出演された栗山演出作品は、比較的人数が少ない作品ですが、稽古中の演出を受ける時間はやはり濃密な時間なのでしょう。

鈴木——すごく凝縮されています。栗山さんは稽古時間も短いし、その分すごく順応性も求められ、台詞がちゃんと入っていないと追いつけない。演出の情報量も多いので、一人芝居の時も「台詞をちゃんと入れておかないとダメだろうな」と、頑張ってる覚悟で挑みました。今回も、役者は動きの面で大変かもしれないと栗山さんは言っていました。モノローグがリアリズムとは違うし、動きもダンスのようなイメージがあるとのことで「役者は大変かもね」とニヤニヤしていました。

矢作——今回、鈴木さんが演じるのは精神科医という役柄ですが、専門的な知識を持つ人を演じる時に意識していることはあるのでしょうか。

鈴木——多少、その分野の勉強はします。例えば宇宙物理学者だったら宇宙物理の本を読んでみたり。それが直接戯曲の中に出てこなくても、あるところまで理解していないと、台詞の説得力がなくて上滑りする可能性があると思っています。やはり頭のいい人の役は大変です(笑)。彼女自身のパーソナルな部分では、揺れている一人の人間として、素のリアリティーや生っぽい温度感を持っておきたいと思っています。「そんなに考えすぎなくてもいいんじゃない」と栗山さんは言っていました。

矢作——坂本昌行さんと長野里美さんのお二人は初めての共演だと思いますが、初めて共演する時に何か意識していらっしゃることはありますか。

鈴木——特にないです。いつもの自分と変わらず…。でも、初めての方と一緒する時は、どういう方なのかと、すごく観察しちゃいます。例えば、お芝居の話以外でどういう話ができるかなとか。どこまで距離感を詰めているのかなと。知らないうちに目で見つめていたりとか、結構あります。あとは、人と話しているところなどを見ていたりします。

矢作——絵画、舞台、映像、ナレーションと、幅広いお仕事をされる中で、演劇についてはどのように考えて

いらっしゃるのでしょうか。

鈴木——演劇は、役者としても人間としても、すごく鍛えられる場所です。だからこゝ10代からコンスタントにチャレンジさせていただいています。今回の『凍える』もそうですが、演劇は特に難解なものにあふれ、登っていくのが大変な戯曲ばかりだなという印象があります。世界中の戯曲や、古い名作から現代の新作まで、本当に幅広い。それを演じていくのは、そのときの自分を突きつけられ、人間性が明らかになってしまう場所だと思っています。

演劇の世界は、舞台に立ったときに、どう生きてきたのか、どう生きているのかも含めて、頭の先からつま先まで見られている。生きていくことに気が抜けない。でも同時にその厳しさが心地よくもあります。心地よから続けている。観るのも好きで、観ても観ても面白いものと出会える瞬間がある。この間もナショナル・シアター・ライブの女性の一人芝居を見たのですが、素晴らしかったです。戯曲には今の社会との距離の近さや、演劇だから表現できることがたくさんあるから、興味が尽きない、大切なものですね。

矢作——今、コロナ禍で制限される中でも演劇を続けていく気持ちはどういうところから生まれてくるのでしょうか。

鈴木——やはり、劇場に来てくださる方がいらっしゃるから。みんなその気持ちで作っているのではないですか。1回目の緊急事態宣言が明けて劇場再開の1作品目が栗山さん演出の『殺意 ストリップショウ』という一人芝居でした。その時に、あつという間にチケットが完売になったと聞いた時に、劇場という場所が求められているとすごく感じました。だからみんな大変な中でもやるし、大変な中来てくださる。求めていただけるのはとてもありがたいことだと思います。

矢作——数々の舞台で、様々な地方に行かれると思うのですが、劇場、上演する土地が変わることによって、何か感じるものはありますか。

鈴木——それぞれの土地では別の緊張感があると思います。同じ演目をやっている、決して同じではない。空間が変わるといのはとても大きいです。劇場の機構によって、声の調節も知らず知らずの間にやっていたり、土地が変わるとお客様の雰囲気も結構違います。

矢作——最後に、豊橋で観ていただくお客さまに、一言メッセージをいただけますでしょうか。

鈴木——戯曲に書かれている内容が、とてもセンセーショナルな内容なので、お薦めする言葉もなかなか難しいのですが、稽古でより身近なものになっていくと思います。ボタンを掛け違わないようにどうするのか。生きていくことにどう希望をもっていくのか。観ている間というより、観終わった後に発見してもらえるものがより多い戯曲だと思います。発見してもらえるものが多い舞台になるように、これからみんなで稽古を頑張ります。

矢作——ありがとうございました。

矢作—— チョコレートケーキという劇団は、もともと大学時代の仲間で立ち上げた劇団ですよ。

古川—— 日澤雄介と僕と岡本の3人は、同じ駒澤大学の演劇研究部の出身で、日澤の学年の人たちが卒業するときに1回公演をやらうとなった。その時は継続する予定はなかったから、劇団名を適当にチョコレートケーキとつけたのですが、2年後の2002年の春に劇団としてやることになり、その時から参加しているのが、岡本と僕です。

矢作—— ささまざまな歴史的な事実を題材に取り上げていますが、なぜ、そういうことを取り上げるのが多いのでしょうか。

古川—— 元々いた作・演出家がいなくなり、残ったメンバーの中で僕が書くしかなく、歴史が趣味というか、大学でも歴史を専攻したので、自分の好きな題材なら楽に書けるのではという甘い目論みで、あさま山荘事件をモチーフに書いた『起て、飢えたる者よ』を、お客さんが面白いと言ってくれ、一緒にやっている劇団員も、面白い、やりがいがあると言ってくれた。それ以来歴史物を書くようになりました。

矢作—— 岡本さんが俳優として、古川さん脚本、日澤さん演出というスタイルの魅力をどう感じられますか。

岡本—— 日澤という演出家、古川という作家がいて、別れた体制で始めたことが作品として功を奏した一つ

の要因だと思っています。古川が歴史に造詣が深い反面、日澤の演出は特段とんなこともなく、かえって一般のお客様の視点・視座で見られるという、演出家と作家が分かれてやってきたのが、非常に大きいメリットでした。

矢作—— ささまざまな時代の役を演じるにあたって、俳優としての苦労はありますか。

岡本—— 単純に俳優としてやりがいがあり、実在の方がいるので色々調べろわけですが、モノマネになってもいけない。結局帰り着くところは、古川くんが書いた台本しかない。実際の人物としても、フィクションですから、物語として付け加えることはあるにせよ、その当時の人々に認めてもらえるようなという心算でいつも望んでいます。

矢作—— 今回豊橋で上演していただく『帰還不能点』では、あまり有名ではない総力戦研究所という存在をピックアップしたのはどういうところからでしょうか。

古川—— 2020年の夏に、『無畏』という作品で南京事件を取り上げ、次も日本の戦争について書くことは、自分の中でも劇団の中でも決まっていた。次は、軍人の責任だけでなく、文官の責任、特に近衛文麿と松岡洋右の対米戦開戦での役割に着目したのが、スタートです。

ほぼ同じ時期の、同じような題材を同じように書くのは、あまりに芸がない。劇中劇でそれを辿っていくという発想が生まれ、総力戦研究所に関する書籍を読み、こ

岡本篤[おかもとあつし]／1979年生まれ。栃木県出身。駒澤大学演劇研究部を経て劇団チョコレートケーキに参加。第2回公演以降全作品に出演。外部公演への客演も多く、CMやドラマにも活動を広げている。また役者による落語一門「夏葉亭」では夏葉亭夕顔の名で高座に上がっている。

古川健[ふるかわたけし]／1978年生まれ。東京都出身。劇作家。駒澤大学演劇研究部を経て劇団チョコレートケーキに参加。俳優として劇団作品に出演していたが、第16回公演『a day』からは脚本も手がけるようになり、以降全ての劇団作品を手がけている。外部公演への作品書き下ろしのほかに、2021年にはNHKドラマ『しかたなかった』と『倫敦ノ山本五十六』で脚本を担当した。

の人たちの戦後の後悔という物語として、歴史的に名前を残した人と総力戦研究所のOB達を対比させることで、市井の人々に近い一人一人の人間の戦争責任にまで話を広げられると感じたのです。

矢作—— 近衛文麿と松岡洋右の二人がキーになりつつ、舞台となる居酒屋のご主人、もう亡くなってしまった研究所の仲間である男性の不在。この不在の存在はどういう視点から発想されたのでしょうか。

古川—— 登場人物たちの大半は、未来に向かうイコール前のことは忘れよう、というところで立ち止まっている。しかし、ずっとそこに立ち続けて後悔していたという、亡くなってしまった山崎進次郎を代弁する奥さんと、同じことを感じている少数派の岡本さん演じる岡田一郎という図式にすると、その山崎進次郎の後悔を生でぶつけられるよりも、物語的により深いものになる予感がした。山崎という死んだ人のために集まり、彼が実は抱えていた悔恨の念に最終的にはメンバー全員がぶち当たるという図式が、結果的にうまくいった。

矢作—— 岡本さん演じる岡田は、劇中で、仲間達を集めたところから、芝居が進行していく中で、心理的に変化しているのでしょうか。

岡本—— 僕のやった岡田という役は、居酒屋で山崎を偲ぶ集まりの中で劇中劇を繰り返す。それぞれ抱えているものが、痛みを伴って見え隠れする中で、彼の中でふ

つふつと、このまま解散して別れてしまっていていいのかと、あの時代に戻る。それに応えてくれるかどうかはわからないが、その答えを出そうとする姿勢を見せる。芝居の設定は昭和25年。昭和16年の集まりから9年、あの時に立ち戻って考えることが必要なのではないかと、その問いかけだけでもという感情が、変化として出てくるのです。

矢作—— 岡本さんは、様々な作品で地方に行かれていますが、場所による違いは感じますか。

岡本—— 一般的には、東京ではありだが、地方ではちょっときついなという話によくありますが、私は、基本的に、東京だから地方だからというのは感じません。反応も極端に違っているとは思いません。

矢作—— 最後に豊橋のお客様に対して一言ずつメッセージをいただけますでしょうか。

古川—— 難しいものを観るという感じはなく、劇中劇を積み重ねていくという形式により、演出と俳優の力の噛み合いの方が上手く作用して、演劇をより楽しめる舞台になっていると思います。

岡本—— 豊橋は、良いお芝居を観るとい土壤がある。題材は難しそうですが、我々はエンターテインメントを作っています。面白いと思っていただくのが一番で、皆さんの日常に、豊かな何かが残ればいいなと、楽しみにしていただければ幸いです。

矢作—— ありがとうございます。心よりお待ちしております。

INTERVIEW:3



劇団チョコレートケーキ

『帰還不能点』

何故あの時、この国は引き返せなかったのか？

11月19日[土]、20日[日]13:00開演／会場＝PLAT 主ホール

脚本＝古川 健／演出＝日澤雄介

出演＝浅井伸治、岡本 篤、西尾友樹／青木柳葉魚、東谷英人、栗野史浩、今里 真、緒方 晋、村上誠基、黒沢あすか

劇中劇を積み重ね、演出と俳優陣の力が噛み合い、
楽しめる舞台になった。脚本 古川 健 出演 岡本 篤

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

二兎社

『歌わせたい男たち』

あの伝説の卒業式が十四年ぶりによみがえる。

12月14日[水]19:00開演

12月15日[木]13:00開演

作・演出＝永井 愛

出演＝キムラ緑子、山中 崇、大窪人衛、うらじぬの、相島一之

会場＝PLAT主ホール



今の時代のこの時期に、 絶対に見逃してはいけない作品です。 出演 キムラ緑子

聞き手 矢作勝義 種の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

キムラ緑子 [きむら・みどり] / 兵庫県淡路島出身。マキノノゾミ主宰の劇団M.O.P.を経て、舞台・テレビ、映画と幅広く活躍。2013年、NHK連続テレビ小説『ごちそうさん』でヒロインをいじめる小姑役で人気を博した。最近の舞台に『有頂天作家』(2022)、『あいまい劇場 其の壱『あく』』『ゴヤ-GOYA』『フェードル』(2021)、『ゲルニカ』(2020)、『三婆』『母と惑星について、おぼい自転する女たちの記録』(2019)など、NHK夜ドラ『あなたのブツが、ここに』、Eテレ『グレーテルのかまど』(ナレーション)に出演。

矢作— 永井愛さん・二兎社の作品の印象や魅力についてお伺いできますでしょうか。

キムラ— 作品は何度も拝見して、脚本も読ませていただいているのですが、出演させていただくことは待望でした。永井さんは身近にある言葉を使って、私たちが考えなければいけない問題、未来に引き継いでいかなければいけない問題などをテーマにされていらっしゃる。私たち俳優は伝えていくということが仕事なので、そういう作品に巡り会えることはうれしいです。井上ひさしさんともそういった作品を書いておられましたが、お亡くなりになり、新しいものはできなくなりましたが、永井さんがいてくださって、うれしいなと。一観客としてどう思っています。

矢作— 『歌わせたい男たち』は、14年ぶりの再演です。出演依頼が来た時はどのように思われましたか。

キムラ— 以前の舞台を拝見しました。面白いだけの作品ではないとずっと頭にあり、自分がその作品をやらせてもらえるとなった時に、脚本を読み返してみたらやはりその通りでした。

矢作— 社会状況が変わり、作品の題材の「日の丸・君が代問題」を知らない若者も多いと思うのですが、再演にあたって、永井さんから何かお話はありましたか。

キムラ— 今のところは何もありませんが、まさにタイムリーではないでしょうか。この作品に出演できることがものすごくラッキーだと感じています。令和の今でもみんなが考えたり気づいたりすることができる。この作品を受け止めてもらえるチャンスだと思います。

矢作— 演じる元シャンソン歌手で音楽講師の仲ミチルについてどのような印象をもっていましたか。

キムラ— 校長先生と国歌を歌いたくないという先生との間の話を聞いて、私が演じる音楽の先生はいろんなことを知り始め、考え始め、最後の歌に繋がります。シャンソンというのは自分の本当の自由な心、解放される心をもってしか歌ってはいけないものまで思うぐらい。最後の歌でシャンソンの重要性が鍵となる作品だと思います。何に苦しんで、どこに抵抗したのかに気づいたとき、胸が苦しくなるのです。

矢作— 今回共演する、相島一之さんと山中崇さんのお二人について、印象をお伺いできますか。

キムラ— 山中さんも相島さんも舞台を拝見していて、とても魅力的なお二人だなと思います。どの役をやっても惹きつけられます。お二人とも、すごくいい役なのです。苦しい役ですが、この役をつくれる過程を見つつ、一緒に作品を作っていくことができるのがうれしい。

キムラ— 「君が代」の問題に対して、人によって、家庭によって、親によって、考え方は違います。私は、私で思っていることはありますが、みなさんはどう思っているのか。観る人も、すごく考えさせられる。でも、決してこうすべきだ、と押しつける作品ではない。

矢作— 結論ではなく、「じゃあ、あなたはどうか考えるの」と投げ掛けられるというのが永井愛さんの真骨頂かと。

キムラ— そうですね。でも、本当に苦しいのです。私。私が校長先生だったら、やり方はいろいろあると思うのですが、相島さんがどう演じられるのが楽しみです。山中さんのやる役はもうつらくて、脚本を読んでいるうちに号泣しました。

矢作— さまざまな舞台で、全国各地で上演活動されていますが、会場、お客さんにより何か変わることはありますか。

キムラ— 劇場の大きさと変わりますね。大きな劇場ですと、無意識のうちに前を向いてしまううえに、声が大きくなってしまったりして(笑)。また、どうしても役者はお客さんのことは意識にありますから、客席と繋がっているかが気になります。大きな舞台になると、そういう繋がりを求めてしまっているのかもしれないですね。

矢作— その土地ごとにお客さんのリアクションのタイミングの違いは自分に跳ね返ってくるものですか。

キムラ— 芝居によっても違うと思いますし、昔から芝居を作るときに、お客さんが笑っている時は緩まっているという感じがする。笑いも楽しい芝居の場合いいのですが、楽しいだけの芝居ではない時にあまり笑いが多く心配になります。笑われていないときのほうが、いい作品になるという思いがあるのです。だから人の笑いや人の何かでは、変わらない。

でも、今回の芝居は仕掛けがすごく面白くて、そこは純粋に楽しんでもらいたいです。難しいコメディアン的な役割なので、私はひたすら真剣にやるだけです。

矢作— 最後に、豊橋のお客様に対して一言メッセージをいただけますでしょうか。

キムラ— 豊橋では沢山の永井愛さんの作品が上演されていますが、14年ぶりの再演となるこの作品は豊橋では上演されていない訳ですから、もう「待ってました!」じゃないですか?「絶対に見逃してはいけない」作品でしょう。今の時代のこの時期に、自分の国をどう思うのか、そういうメッセージが送り届けたいと思います。

矢作— ありがとうございます。

INFORMATION

PLAT主催・共催公演情報

小曽根真 ニューイヤー・ジャズライブ ディキシーランド・メモリーズ



小曽根真(ピアノ) 撮影:Kazuyoshi Shimomura (AGENCE HIRATA) 北村英治(クラリネット)

11/5 [土] 13:00開演 / 18:00開演 **好評発売中**
11/6 [日] 13:00開演 / 17:00開演
高校生と創る演劇『せんをか』 11月5日13:00のみ
●脚本＝田坂哲郎●演出＝川口智子●出演＝公募オーディションで選ばれた高校生●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付き]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円 [宝くじの助成金で実施します]

11/10 [木] 13:00開演 **好評発売中**
11/12 [土] 13:00開演 / 18:00開演
11/13 [日] 13:00開演
『凍える』
●作＝ブライオニー・レイヴァー●翻訳＝平川大作●演出＝栗山民也●出演＝坂本昌行、長野里美 / 鈴木杏●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席10,000円、A席8,000円、B席6,000円ほか

11/19 [土] 13:00開演 **好評発売中**
11/20 [日] 13:00開演
劇団チョコレートケーキ 11月19日のみ
『帰還不能点』
●脚本＝古川健●演出＝日澤雄介●出演＝浅井伸治、岡本篤、西尾友樹 / 青木柳葉魚、東谷英人、栗野史浩、今里真、緒方晋、村上誠基、黒沢あすか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか※19日(土)は終演後トークあり。

12/14 [水] 19:00開演 **好評発売中**
12/15 [木] 13:00開演
二兎社 12月15日のみ
『歌わせたい男たち』
●作・演出＝永井愛●出演＝キムラ緑子、山中崇、大窪人衛、うらじぬの、相島一之●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席6,000円、S席ベア10,000円、A席4,000円ほか※14日(水)は終演後トークあり。

2023/1/24 [火] 19:00開演
小曽根真
ニューイヤー・ジャズライブ
ディキシーランド・メモリーズ
ジャズピアニスト・小曽根真が、スペシャルゲストに北村英治を迎え、豪華メンバーでお贈りするニューイヤーコンサートが決定しました！
●会員先行＝10月8日(土)●一般＝10月22日(土)●出演＝小曽根真(ピアノ)、北村英治(クラリネット)、中川喜弘(トランペット)、中川英二郎(トロンボーン)、小曽根啓(サクソフーン)、中村健吾(ベース)、高橋信之介(ドラムス)●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席一般6,000円、A席一般4,000円ほか
[特別協賛＝サーラグループ]

託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演
2022

初春『ぶらっと落語会』～一月晦日の初笑い～



三遊亭小遊三 桂文月

2023/1/31 [火] 18:30開演
初春『ぶらっと落語会』～一月晦日の初笑い～
三遊亭小遊三、桂文月、ナオユキらの出演による落語会です。
●会員先行＝11月5日(土)●一般＝11月19日(土)●出演＝三遊亭小遊三、桂文月、ナオユキ、三遊亭金の助ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般3,000円ほか

2023/2/5 [日] 16:30開演 **ライブポートとよはし**
東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会
●会員先行＝10月8日(土)●一般＝10月22日(土)●出演＝円光寺雅彦(指揮)、佐藤晴真(チェロ)、東京フィルハーモニー交響楽団●会場＝ライブポートとよはしコンサートホール●料金＝[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか

2023/2/18 [土] 13:00開演
2023/2/19 [日] 13:00開演
木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』 2月18日のみ
木ノ下歌舞伎が約5年ぶりに新たな演出家としてお招きするのは、国内外で活躍し、近年は能の翻訳や能の形式での新作の上演などにも意欲的に取り組む、岡田利規(チェルフィッツェ)。木ノ下裕一監修・補綴のもと、岡田利規書き下ろしの上演台本で、数々の演出家が手がけてきた鶴屋南北の代表作に挑みます。
●会員先行＝11月26日(土)●一般＝12月3日(土)●作＝鶴屋南北●監修・補綴＝木ノ下裕一●脚本・演出＝岡田利規●出演＝成河、石橋静河ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか

【関連企画】
11/9 [水] 19:00開始
木ノ下裕一 トーク&レクチャー
歌舞伎の演目を新たな切り口で上演する「木ノ下歌舞伎」主宰・木ノ下裕一が、『桜姫東文章』について解説するトーク&レクチャーを実施いたします。
●講師＝木ノ下裕一●会場＝PLATアールスペース●参加費＝無料
●定員＝100名(先着順)●対象＝チケットの有無に関わらずどなたでも●申込方法＝①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み②プラットチケットセンターに電話(0532-39-3090)

東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会



円光寺雅彦(指揮) ©K.Miura 佐藤晴真(チェロ) ©Seichi Saito

木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』



成河 石橋静河

ピーピング・トム『Moeder/マザー』



撮影:Herman Sorgeloos

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]●オンライン http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]●チケット販売＝販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額 / 高校生以下:1,000円●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



高校生と創る演劇『せんをか』

2023/2/23 [木・祝] 15:00開演
ピーピング・トム
『Moeder/マザー』
ベルギー発。“現代のピナ・バウシュ”とも称される最高にスキャンダラスなダンスカンパニー、ピーピング・トムが5年ぶりに来日公演!前作『ファーザー』(日本公演2017年)に続く、ファミリー・トリロジーの第2弾です。シニアキャストの募集あり。詳細は11月以降発表。
●会員先行＝11月26日(土)●一般＝12月3日(土)●構成・演出＝ガブリエラ・カリーソ●ドラマトルク・演出補佐＝フランク・シャルティエ●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。2022年度のオーディションで選ばれた音楽家によるコンサートです。
●会場＝PLATアールスペース
●料金＝[全席自由・整理番号付]500円

12/23 [金] 14:00開演 **好評発売中**
『Percussion Theater ～劇場音楽の調べ～』
SIGNAL
小林公哉(打楽器)、成田花南(打楽器)、柴田知明(打楽器)

2023/1/5 [木] 11:30開演 **好評発売中**
『ヴァイオリンでスパイシー & ファンキー』
石塚和基(ヴァイオリン)

2023/2/14 [火] 14:00開演
『心躍るリズムと音色～知られざる打楽器の世界へようこそ～』
濱田紗治伽(打楽器)
●会員・一般発売＝12月22日(木)

2023/3/24 [金] 18:30開演
『春を告げる歌曲たち』
千賀さゆり & 安成紅音リートデュオ
千賀さゆり(ソプラノ)、安成紅音(ピアノ)
●会員・一般発売＝12月22日(木)

ワークショップ・レクチャー
プラット演劇研究 & 劇評講座
『演劇を観る。語る
ー作品にもう一步近づくレッスン』2022年度
●日程＝10/23[日]、10/30[日]、12/4[日]、12/25[日]●講師＝山口宏子●参加費＝一般1,000円ほか●対象＝高校生以上の方で、プラットで上演する、劇団チョコレートケーキ『帰還不能点』(11/19・20)と二兎社『歌わせたい男たち』(12/14・15)を観劇予定の方。どちらか一方だけの観劇でも可能。●募集人数＝15名(先着順)●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口へ持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

市民と創造する演劇 関連企画
舞台衣裳ワークショップ
『ヌケガラー型取り & 立体裁断で
究極にフィットした服を作る』
●日程＝11月12日(土)13:00～17:00●講師＝田島由深(舞台衣裳作家)●会場＝PLAT創造活動室A●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上の方で舞台芸術、衣裳に興味のある方。●募集人数＝20名(先着順)●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口へ持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

平田満企画「対話を考える」vol.2
『哲学対話ワークショップ』
～エンパシーについて～
●日程＝11月18日(金)18:00～21:00●モデレーター＝平田満●ゲスト＝ブレイディみかこ(オンライン参加)●会場＝PLAT創造活動室A●参加費＝1,000円●対象＝高校生以上(演劇経験不問)●募集人数＝20名(先着)●申込方法＝①10/15(土)10:00より劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。②定員に空きがある場合は、10/16(日)10:00よりプラットチケットセンター電話(0532-39-3090)。

ワークショップファシリテーター養成講座
2022[後期]『まちを知る、考える』
●日程＝12月3日(土)～2023年1月29日(日)(全8回)●講師＝すずきこーた、柏木陽、吉野さつき●会場＝PLATほか●参加費＝3,000円●対象＝18歳以上で、極力全日程参加できる方。演劇経験不問。●募集人数＝20名(応募者多数の場合は選考)
●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口へ持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

PURA PURA

バラコの
寄り道
ぷらぷら

皆さんは韓国ドラマ、お好きですか？

私は一話一時間以上ある16話編成のドラマを徹夜でイッキ見し、冷蔵庫にはチャミスを常備、韓国語教室に通ってハングルをマスターした友人の足下にも及ばないけれど、話題作にはそれなりに目を通し、コン・ユのインスタをフォローする程度には好きです。

韓国映画・ドラマの映像演出は年々進化しています。それでいて、かつて日本人がバブリーなトレンドドラマ全盛期にやり尽くした(と思ってしまった)ゴージャス&胸キュン展開、ヒロインをお姫様抱っこするような古典的ラブストーリーも、照れず逸れずにお腹いっぱいやってくれるからいいんです。そして同じアジア人だから、ハリウッド映画のように、こんな夢物語は遠い異国の話よね…と思わず、身近な感覚で見られます。

それでも細かく追っていけば、当然文化の違いはあります。似ているようで違うこと。そのひとつが「目上の人との付き合い方」。そしてドラマのなかでお約束のように出てくる台詞のひとつが「なんでタメ口なの?」です。

韓国ドラマ、特にラブコメディを見ていると、年齢差がある相手に対して年上側がこの「なんでタメ口なの」という台詞を言います。言われた方は気にせず乱暴な言葉遣いで返すことがほとんどで、要は「相手は礼儀知らずな失礼な奴」だけ「常識を越えてくる特別な関係(になりうる)」ということを示しているわけです。これはひとえに、韓国が目上に対する礼儀を非常に重んじる儒教の教えがあるからですが、ほぼ必ず出てくるやりとりなので、韓国ドラマでタメ口が発生する際はマナーコードとしてこの台詞を入れるよう指定されているのかと真剣に思います。

逆にアメリカのドラマで時々ギョッとすることはありませんか。たとえば入社面接シーンで、面接に来た若者がハイバックの椅子に深く腰掛け、足を組んで上司に喋ったりするとき。目上に向かってそんな態度いいの?と一瞬思いますが、それは日本の価値観。アメリカでは自信ある態度を示すためにそうしているのであって、マナー違反ではありません。縮

「なんでタメ口なの?」

芸術文化アドバイザー

桑原裕子

こまっていることを良しとしないだけで、日本のように皆同じようなリクルート・スーツを着て、ボタンをきっちり閉めていると好印象……という感覚の方が、海外から見れば不思議でしょう。

そう考えると、日本人の敬語や年上／年下との付き合い方って、凄く複雑で難しいなあ……と思います。敬語を厳守もしないけれど、空気を読まないタメ口はダメ。過剰に丁寧にすれば慇懃無礼、堂々としすぎれば生意気。これという決まりがなく、関係値で変容するのが日本。

なぜ、こんな話をしているかという、今私が新しい現場に来て悩んでいるからです。

現在私は、『閃光ばなし』という舞台の稽古中。福原充則さんの脚本／演出で、主演は関ジャニ∞の安田章大さん。「昭和三部作」と題し、福原&安田コンビの舞台で2017年『俺節』、2019年『忘れてもらえないの歌』を上演し、今作はついに三本目です。おなじみとなった面々も、新たに加わるキャストも様々な大所帯。私の年齢は中間より少し上のグループに属するので敬語で話しかけられて当然ちゃあ当然なのです。

が、なぜか私、ずっと昔から「年下にも敬語で接する人」として「年下からもタメ口で話しかけられる人」に憧れています。

前者に関しては、自分でやれば良いだけに思うのですが、私は若い人に対し、うまい具合に敬語が使えません。いや、使いたいです。ですが使おうとすると異常によそよそしく映らしく、「お願いだから敬語はやめてください」と先日お願いされました。声が低くて顔立ちがキツいからでしょうか。真剣な顔をしているだけor眠いだけなのに「怒ってるんですか?」と恐れられることがままあります。なので、あえてくれたノリでタメ口で喋るのですが、そうすると今度は『姐御』などと呼ばれてしまう始末。そんなキャラになりたいわけじゃない。タメ口でちょうど良い感じもまた、難しいです。

当然ながら、私にタメ口で話しかける若人もまあ、いません。それこそ「なんでタメ口な

の!?!」と凄んできとうな人に見えるのでしょうか。私が演出家である立場の場合、俳優とは目上目下といった縦の関係より、仕事上のスタンスとして敬語を使い合うのが適切だとは思いますが、俳優同士なら、いずれは楽屋で下着姿でダベる仲なのだし、ゆるっとタメ口でいいのだけれど。以前、共演してる若い男性俳優に「バラでいいよ、そう呼んでよ」と軽いノリで言ったら通りすがりの人に「気をつけてください、ハラスメントになりますよ」と囁かれ震撼しました。愛称を希望したらセクハラ? 強要したらパワハラ。な……なるほど。

若い頃は誰にでも敬語で良かったし、なめるなど言ってもなめられたのに、これはこれで難しい年頃です。

私より年上でも、いつの間にか若い人たちから愛称を呼び捨てされたりタメ口で会話したり出来る人がいます。MONOの土田英生さんなどがそうですね。非常に羨ましい。警戒心を持たれない柔らかい空気、憧れます。

今はまだ稽古序盤。私への言葉遣いにいろんな人が悩んでいるのを肌で感じます。私も、敬語を使いたいののに無理にタメ口にしたり、グチャグチャしています。共演者には友だちのように思っただけで、いい大人が若人にタメ口を求めるのも痛々しいです。

この前は二回り年下の共演者がいるとわかり、うああ娘くらい年の差だ!と何気なくいったら、「見えません!お若いです!」と恐縮気味に何度も言われ、申し訳なくて「やめろ!」と変な踊りでごまかしました。そのくせ、稽古中に転んで足をひねった私に馴染みの先輩俳優が「バラもおばさんになったなあ」と言われたらムツとして「22歳の頃からクセになってる捻挫なんですよ」とか言わなくてもいいことを返したりして……お前はどうか見られたいねん、という。

いつと儒教のように厳密化してほしい。それかもっとアメリカナイズされて欲しい。いや、ここまで書いてわかりましたが、結局私が欲しいのは稽古とタメ口を使い分ける言語力ではなく、相手を警戒させない人間力、なんでしようね……。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES architects engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp



有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話 52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 喫茶業菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ・グ500
プラット主ホール・アトスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町閑取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala

サーラグループ

広告募集

TICKET CENTER



チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00～19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

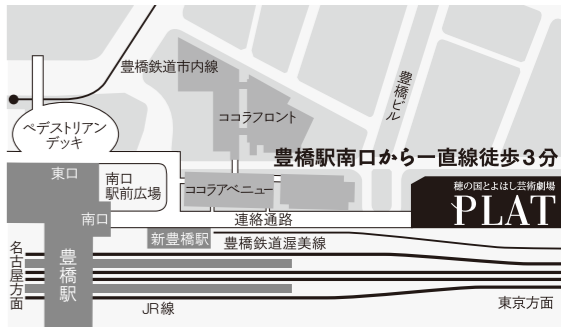
特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでごチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:1,000円
●購入方法
各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

令和4年6月1日からの劇場代表電話の受付時間変更について

穂の国とよはし芸術劇場の代表電話の受付時間を、令和4年6月1日(水)より以下の通りといたします。なお、開館時間・休館日につきまして変更はございません。
●代表電話番号 0532-39-8810
●電話受付時間 9:00～20:00(休館日除く)
●対応開始日 令和4年6月1日(水)



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表](9:00～20:00)
開館=9:00～22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT